

発達を見る眼をゆたかに、 おおらかに

第7回

5歳児の

「未来の自分」を

期待する「こころを育む



鳥取大学

寺川志奈子

てらかわ しなこ／鳥取大学地域学部。研究テーマは「子どもの自我、自己、および社会性の発達と教育的支援」について。共著に『自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1 子どもの「ねがい」と授業づくり』（クリエイツかもがわ）など

「なりたい自分」に向かう粘り強さ

5歳児クラスで木工遊びをした時のことです。子どもたちは、金槌や釘の持ち方、最初はやさしく打つことなどを、専門家の先生に教えていただきながら、木片に釘打ちを初めてやってみました。

先生が見せてくださるやり方を真剣な目で見ていたなっちゃん、はじめは大人に手を添えてもらうこともしながら、だんだんコツをつかんできて、釘を打っては自分がやった仕上がりをいろいろな角度から見直し、また打ってはまた見直すといったことを何度も繰り返し返しています。そして、こつこつと長い時間をかけて「できたっ！」と満足げな表情で見せてくれたのは、低―中―高の順に3本の釘が木片にきれいに一列に並んで打ちこまれた作品でした。

こんなふうに、5歳になると、モデルとなる他者を模倣しながら、それに合わせるように自分の行動を調整し、新しい技を自分のものにしていく姿が見られるようになります。

「自分もあんなふうにやってみよう」というあこがれから生まれたねがいを背景に、たとえば竹馬、駒回し、登り棒、雲梯など新しい技に挑戦していきます。そしてそれは単なる模倣ではなく、なっちゃんが「低―中―高」の順に仕上げるという、自分で立てた目標に向かって何度も見直し調整を図っていったように、与えられた目標ではない。自分がなりたい自分に向かつて粘り強く頑張るプロセスに値打ちがあるのだと思います。

5歳半頃になると、自分をとらえる目に時間軸が加わるようになります。今の自分は、赤ちゃんの時から自分とずつとつながって今があること、そして、これから未来に向かつて大人になっていく自分であることを認識しはじめます。

5、6歳児に「小さい時からどんなところが変わってきたかな？」と尋ねると、「背が高くなった」「すぐに泣かなくなった」「お姉さんになった」といった答えが返ってきます。「お姉さんになった」という言葉には、5歳だからこその特別な意味のこもった誇りが溢れています。そして今度は、「大きくなったら何になりたい？」と尋ねてみると、「TOKYO MER」みたいなお医者さんになりたい」「空港の消防士さんになりたい」「警察官になりたい」などの答えが聞かれます。さらに「それになるためには、今、何をしたらいいかな？」と尋ねると、「困っている人を助けるようにしたい」「走るのを頑張る」「いっぱい食べて強くなる」といった子どもらしい考えが出されました。テレビで見たことや園外保育で実際に体験してきたこと、身近な大人がやっているかっこいいことといった経験をもとに、今の自分のつながりの先にある大人にだんだんやっていく自分を想像することができはじめます。

子どもが自分の未来に対していきいきとした見通しをもてるのは、あこがれのモデルがあること、それと同時に、これまでの自分を振り返った時に、よりよい自分に変化してきたという手応えや満足感があるからではないでしょうか。よりよい自分に変わってきたという「自己形成視」(田中・

田中、1988)は、これからもっといい自分に変わっていくかもしれないという未来の自分への期待につながり、今を頑張る原動力になっていくのだと思います。子どもが「なりたい自分」に向かつて、じっくりと時間をかけてとりくみ、だんだんとできていく実感がもてる活動が生活の中に準備されていることが求められるでしょう。そして、他と比較して「できた―できない」を評価するのではなく、一人ひとりの子どもらしさを尊重し、多様な評価軸をもってその子ども自身のよき変化を認め、伝え返していくことが、大人の大切な役割ではないでしょうか。

遊びを通してつながり合う仲間

5歳児クラスになると、子どもたちは、言葉(コミュニケーション)の手段としての外言と、思考の手段としての内言の発達を支えに、目の前にはない世界を想像し、その空想の世界のストーリーをつくり、共有し始めます。その自分たちだけのとおきの世界を、5歳児クラスのみんなで共有することによって、クラス集団が育ち、子どもたちがクラスの一員としての気持ちを高めていった、U先生の実践を紹介します。

きりん組は36名の子どもたちと新しい担任2名でスタートしました。4月、5、6人の子どもたちが着席行動をとれず、部屋の中を走り回ったり、棚の上によじ登ったりといった落ち着かない行動を見せていました。また、他の子どもたちも遊びにあまり夢中になれない様子で、自分から友だちを